安全データシート(SDS)

作成日　2005年4月1日
改定日　2014年4月1日

1. 製品及び会社情報

製品名: **アポリー　ブライト**　(Aporry Brite)
会社名: 三愛石油株式会社
化学品事業部　化学品部　品質保証課
住所: 東京都品川区東大井5-22-5
電話番号: 03-5479-3121
FAX番号: 03-5479-3375

製品の用途: 錆転化型防錆プライマー
整理番号: AP-28

---

2. 危険有害性の要約

国・地域情報:
労働安全衛生法:　通知対象物質　No.304シュウ酸:0.2%以下含有
No487フッ素及びその水溶性化合物
0.2%以下含有

GHS分類:
物理化学的危険性: 分類対象外、分類できないまたは区分外
健康に対する有害性:

急性毒性(経口)	区分外
皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
生殖毒性	区分2

*上記に記載がない危険有害性は、分類対象外または分類できない。

GHSラベル要素:
絵表示:

注意喚起語:	危険	**H code**
危険有害性情報:	・重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷	(H314)
	・重篤な眼の損傷	(H318)
	・生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い	(H361)

注意書き:

〔安全対策〕

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱い後は、うがいをして、手、顔などをよく洗うこと。
- ・この製品を使用する時には、指定された個人用保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等)及び作業衣を着用すること。

〔応急措置〕

- ・皮膚(または髪)に付いた場合:直ちに汚染された衣服をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
- ・飲み込んだ場合:口をすすぐこと。或いはコップ1～2杯の水を与え、無理して吐かせないこと。
- ・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体勢で休息させること。
- ・ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

〔保管〕

- ・製品の品質保護のため、5℃以下または30℃以上になる場所には保管しないこと。
- ・容器は密閉し、換気の良い冷暗所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。

〔廃棄〕

- ・内容物及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

---

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区分:	混合物
化学名または一般名:	水溶性ラテックス, タンニン酸の混合物
CAS No.:	原料は登録済
官報公示整理番号(化審法):	原料は登録済
含有量:	フッ素及びその水溶性化合物:0.2%以下含有 蓚酸:0.2%以下含有 他非公開

4. 応急措置

吸入した場合:
- 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 呼吸に関する症状が出た場合、速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合:
- 汚染された衣服や靴を脱ぎ、製品に触れた部分を多量の水で15分以上洗浄すること。
- 洗浄後も異常が認められる場合は医師の診断を受けること。
- 汚染された衣服は着替え、再使用する場合には洗濯すること。

眼に入った場合:
- 直ちに清浄で適温の緩やかな流水で15分間以上洗眼すること。
- コンタクトレンズを使用していて容易に外せる場合ははずし、その後も洗浄を続けること。
- 速やかに医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合:
- 無理に吐かせずに速やかに医師の手当てを受けること。
- 口の中が汚染されている場合は水で十分洗うこと。

***いずれの場合においても直ちに医師の診断を受けること。**

5. 火災時の措置

消火剤:
- 水/炭酸ガス/ハロゲン化物/粉末消火剤

使ってはならない消火剤:
- 知見なし

特有の有害危険性:
- 毒性または腐食性の気体が発生する可能性がある。

特有の消火方法:
- 消火作業は風上から行う。
- 容器を放水により冷却する。

消火を行う者の保護:
- 防災保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項:
- 漏出時の処理を行う際には必ず保護具を着用する。
- 必要に応じた換気を確保する。
- 着火した場合に備えて、消火器材を準備する。
- 多量の場合、人を安全な場所に避難させる。

環境に対する注意事項:
- 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

回収、中和の方法:
- 多量の場合には可能な限りせき止めし、ポンプなどで回収する。
- 盛り土等で囲い流出を防止し、(水路に入ると小量でも白濁する)硫酸バンドや塩化カルシウム水溶液を加えて凝固させる。
- 凝固物は廃棄物の処理及び清掃に関する法律の施行令6条に従って、セラム分は水質汚濁防止法令第3条に従って処理する。
- 少量の場合には砂・ウエス等で吸収させ、密封容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: ・皮膚、眼へのばく露防止のため、長袖の作業衣を着用し、適切な保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等)を装着する。
・製品のミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
・製品は洩れ、あふれ、飛散しないよう注意して取り扱う。
・取扱い後にうがいをし、手、顔などをよく洗う。
・製品の容器は、転倒、落下、衝撃、引きずりなどの乱暴な取扱いはしない。
・使用する前にはよく振って混ぜてから使用すること。

局所排気、全体換気: ・十分な排気下で取り扱う。必要に応じて、局所排気設備を用いる。

保管

保管条件: ・使用の都度、容器を密閉する。
・密閉容器に入れて保管する。
・保管容器は耐腐食性の材料を使用する。
・容器は、施錠した換気の良い冷暗所に、一定の場所を定めて保管する。
・製品の品質保護のため、5℃以下または30℃以上になる場所や雨水、直射日光のあたる場所、湿気の多い場所には保管しない。アルカリ性物質と一緒に保管しないこと。

容器包装材料: ・消防法及び国連輸送法規に規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度:

許容濃度	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(日本産業衛生学会、2007年度版)	ACGIH(2007) TWA
酸性弗化ナトリウム	設定されていない	設定されていない	2.5mg/m^3
蓚酸	設定されていない	設定されていない	1.0mg/m^3

設備対策: ・換気設備又は局所排気設備を用いる。

保護具

呼吸器の保護具: ・呼吸用保護具を着用する。
手の保護具: ・皮膚への接触を避けられる保護手袋を着用する。
眼の保護具: ・ゴーグル型もしくは側板付き普通眼鏡型を着用する。
皮膚、身体の保護具: ・皮膚への接触を避けられる耐薬品性の保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観:	乳白色液体
臭い:	特異臭
pH:	2.0(原液、20℃)
融点・凝固点:	データなし
沸点・初留点:	データなし
引火点:	なし
自然発火温度:	データなし
爆発範囲:	データなし
蒸気圧:	データなし
蒸気密度:	データなし
比重(嵩密度):	1.0(20℃)
溶解度:	水溶性
ｵｸﾀﾉｰﾙ／水分配係数:	データなし
分解温度:	データなし
粘度:	約0.06pa・s(25℃)

10.安定性及び反応性

安定性:	・通常の使用下では安定。
危険有害可能性:	・知見なし
避けるべき条件:	・5℃以下または30℃以上での保管は避けること。
混触危険物質:	・アルカリ性物質
危険有害な分解生成物:	・原料の分解時に一酸化炭素, 二酸化炭素を発生する。

11.有害性情報

別紙参照

12.環境影響情報

生殖毒性:	・別紙参照
残留性・分解性:	・データなし
生体蓄積性:	・データなし
他の有害影響:	・データなし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物:	・おがくず・珪藻土などに吸収させて法規に基づき、行政が認定した少量ずつ焼却する。 ・取扱いについては、「7.取扱い及び保管上の注意」を参照。
汚染容器および包装:	・内容物を完全に除去した後、法規に従い産業廃棄物処理業者等に処分を委託する。

14.輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報:	・労働安全衛生法、消防法等に定められている輸送方法に従う。
海上規制情報:	・船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空規制情報:	・航空法に定められている輸送方法に従う。
特別の安全対策:	・運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実におこなう。

国際規制

国連番号:	・3265
国連分類:	・クラス8 (腐食性物質)
容器等級:	・容器等級Ⅲ

15.適用法令

消防法:	・非該当
労働安全衛生法:	・通知対象物質 No.304 蓚酸:0.2%以下含有 No.487 フッ素及びその水溶性化合物:0.2%以下含有
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法):	・非該当
毒物及び劇物取締法:	・非該当
化審法:	・優先評価化学物質 No.4 1,3-ブタジエン No.47 スチレン
船舶安全法:	・知見なし
海洋汚染防止法:	・知見なし
航空法:	・知見なし
水質汚濁防止法:	・有害物質(ふっ素及びその化合物)
下水道法:	・特定有害化合物(ふっ素及びその化合物)

16.その他の情報

参考文献

1. 国連GHS文書 改定3版 (2009)
2. JIS Z 7252:2009 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
3. JIS Z 7253:2012 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
4. 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)公開データ
5. 化学工業日報社「15107の化学商品」(2007)
6. 弊社入手の製品安全データシート及び入手資料

＊注意

安全データシートは危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者に提供されるものです。取扱う事業者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

別紙
有害性情報の詳細

GHS区分	分類	分類の根拠
急性毒性（経口）	区分外	LD_{50}: >10,000mg/kg(ATEmix)
急性毒性（経皮）	分類できない	データなし
急性毒性（吸入）	分類できない	データなし
皮膚腐食性／刺激性	区分1	当該製品のpHが約2に相当するため。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1	当該製品のpHが約2に相当するため。
呼吸器感作性	分類できない	データなし
皮膚感作性	分類できない	データなし
生殖細胞変異原性	分類できない	データなし
発がん性	分類できない	データなし
生殖毒性	区分2	区分2の原材料を0.1%以上含むため。
特定標的臓器（単回ばく露）	分類できない	データなし
特定標的臓器（反復ばく露）	分類できない	データなし
吸引性呼吸器有害性	分類できない	データなし
水生環境有害性（急性）	分類できない	データなし
水生環境有害性（長期間）	分類できない	データなし
オゾン層への有害性	分類できない	データなし